

大通交流拠点地下広場

整備基本計画（案）

平成24年7月

札幌市

目 次

はじめに.....	1
1 大通交流拠点の位置づけ.....	2
2 大通交流拠点の現状.....	4
3 整備の方針と内容	6
整備概要図	7
4 主な整備概要	8
5 概算事業費及び事業スケジュール	9

はじめに

札幌市では、「都心まちづくり計画」（H14年策定）及びこれを補完する「都心まちづくり戦略」（H23年策定）などにもとづき、民間事業者、商店街組織、まちづくり会社等と協働的に、都心の魅力と活力を高める取組を進めています。

これまで、札幌駅前通地下歩行空間整備、創成川通アンダーパス連続化と創成川公園の整備や、民間組織によるこれらの積極的な活用、さらにこれらと連携した民間建物建設などにより、上記計画に位置付けられる骨格軸の形成が進んでいます。

大通交流拠点については、札幌市と周辺地権者等が協働で「大通交流拠点まちづくりガイドライン」を策定（H19年策定）し、これに即して周辺建物の建替えが進められつつあります。

このような都心まちづくりの進展を受け、今後さらに都心の魅力と活力を高めるべく、大通交流拠点の中心的な施設（大通交流拠点地下広場）の整備について、その考え方と内容を明らかにするため、この計画を策定します。

本計画では、大通交流拠点が札幌都心の中心性を象徴するにふさわしい拠点となるよう、公共サービス等の利便性を向上し人々の多様な活動を受け止めることが可能となる広場づくりを、空間的な魅力を高めることを伴いながら実現することを目指します。

1 大通交流拠点の位置づけ

都心まちづくり計画（H14.6）

都心の骨格構造「4軸3交流拠点」における展開プログラムの設定

《大通交流拠点》

- 人びとの多様な交流を支援するとともに都心内での中心性を象徴的に表現する「サッポロ広場」を形成

- 市民や札幌を訪れる人々の多面的な交流を支える機能の誘導
- 歩行者のためのわかりやすくゆとりのある空間の形成
- 建築物と公共空間の調和による象徴的空間の形成



大通交流拠点まちづくりガイドライン（H19.3）

方針1 都市の中心を表現する広場空間をつくる

■地下鉄大通駅を中心に周辺建物地下部と一体となる広場空間をつくる

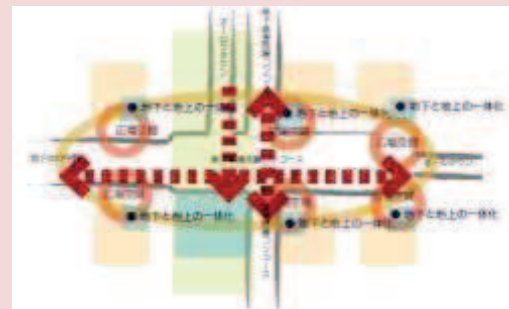
- ・地下歩行空間、駅コンコースと建物地下階とを広幅員で接続
- ・広場空間での活動を豊かにするため、地下階に市民が気軽にアクセスできる機能を配置

■地上・地下の一体性を表現するシンボリックな広場空間をつくる

- ・地上と地下を結びつける空間、装置の設置

■広場空間で多様なアクティビティが可能になる仕組みをつくる

- ・地下鉄コンコースの設置物の移設による見通しを確保
- ・休憩、待ち合わせなどができる空間を確保



方針2 都市軸のクロスポイントとして印象的で美しい姿とする

■歩行者が滞留できる空間や辻の空間を楽しめる場を設ける

- ・屋内または屋外の小広場を配置

方針3 多様な活動を可能にする機能を集積する

■豊かな時間を過ごすことのできるよう滞留や交流機能を導入する

- ・都市文化を育む文化、情報、滞留などの機能を導入

■ふさわしくない機能を抑制する

※地下部を対象とする部分のみ抜粋

さっぽろ都心まちづくり戦略（H23. 1策定）

【展開戦略】さっぽろ象徴戦略

■戦略テーマ

世界都市さっぽろを象徴する都心の骨格構造の強化・形成

■実現方策

都心のまちづくりを象徴する交流拠点の強化・形成



《大通交流拠点》

地上と地下の一体的な整備による、都心での中心性を象徴的に表現する「サッポロ広場」の形成

第3次札幌新まちづくり計画（H23. 12策定）

＜政策目標3＞活力みなぎる元気な街

重点課題4 将来を見据えた魅力ある都市の整備

施策2：魅力あふれる都心のまちづくり

大通交流拠点まちづくり推進事業

大通交流拠点整備事業として、札幌駅前通と大通との交差点地下（地下鉄南北線大通駅コンコース）について、札幌駅前通地下歩行空間や民間ビル等と連携した整備を行います。

2 大通交流拠点の現状

(1) 周辺整備状況

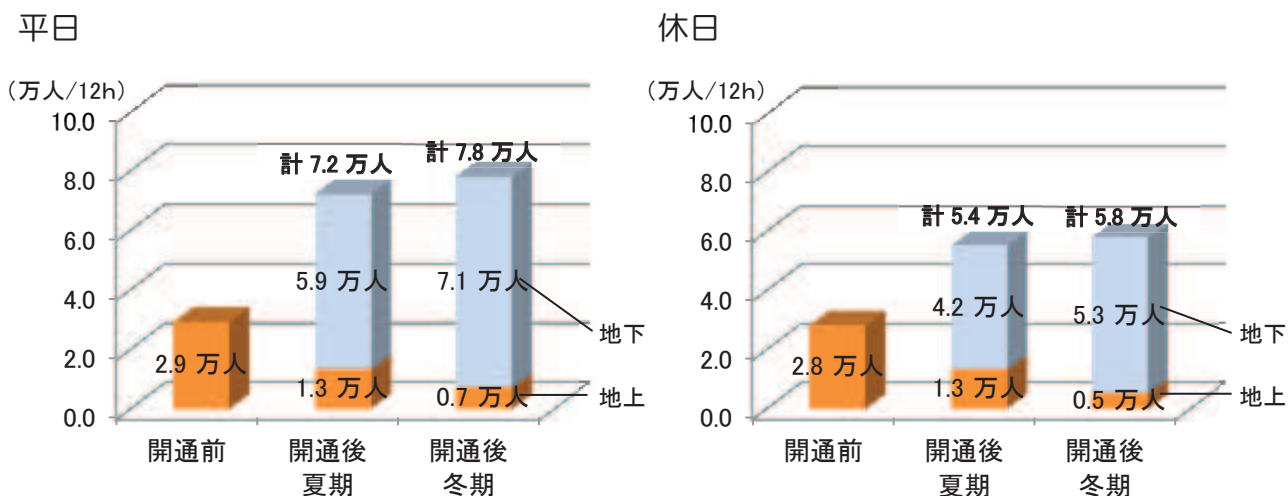
大通交流拠点の地下部では、札幌駅前通地下歩行空間が平成 23 年 3 月に開通し、地下鉄南北線大通駅と接続され、さっぽろ地下街においてもリニューアル事業が実施されました。また、「大通交流拠点まちづくりガイドライン」に基づく民間事業として、北洋大通センターが平成 22 年 5 月にオープンし、(仮称)札幌大通西 4 ビル(旧：札幌秋銀ビル)の建替事業が平成 25 年 3 月の竣工予定で進められています。

(2) 地下歩行者通行量の状況

平成 12 年以降、札幌駅南口駅前広場の整備、JR タワーのオープンなどにより業務機能中心だった JR 札幌駅周辺に商業機能の集積が進み、人の流れやにぎわいが札幌駅周辺に集中したため、大通地区の停滞感が懸念されていましたが、平成 23 年 3 月に札幌駅前通地下歩行空間が開通したことにより、都心部の回遊性が高まっています。

これに伴い、札幌駅前通(地上部及び地下歩行空間)の歩行者通行量は札幌駅前通地下歩行空間の開通前に比べ約 2 倍(休日)から約 3 倍(平日)と大幅に増加(図 1)。地下鉄南北線大通駅においても同様に約 2 倍(駅南側)から約 3 倍(駅北側)と歩行者通行量が増加しています(図 2)。

【図 1：札幌駅前通の通行量の変化】



※ 現地計測による調査結果(7時から19時までの12時間合計)

(平日 開通前 H23.3.9、開通後 夏期 H23.4.25・7.11、冬期 H23.12.5・H24.1.16 実施)

(休日 開通前 H23.3.5、開通後 夏期 H23.4.24・7.10、冬期 H23.12.4・H24.1.15 実施)

(調査主体：札幌市、札幌開発建設部)

【図2：地下鉄南北線大通駅の通行量（ピーク時）】



※ 各断面通行量：現地計測による調査結果(H24.5.11：朝8時から9時、夕17時30分から18時30分のピーク時2時間合計)
 開通前：札幌駅前通地下歩行空間開通前(H22.8.20：朝8時から9時、夕17時30分から18時30分のピーク時2時間合計)
 (調査主体：札幌市)

(3) 施設の配置状況

コンコース内壁側に民間テナントや行政サービス施設が配置されており、円滑な歩行者動線となっていないとともに、見通しを妨げるものとなっています。また、混雑時には行政サービス施設への待ち行列が発生するなど、歩行者動線の妨げとなる状況も起きています(図3)。

【図3 地下鉄南北線大通駅の施設の配置現況】



3 整備の方針と内容

上位計画等における大通交流拠点の整備目標及び現況を踏まえ、当広場の整備の方針と、これに即した整備内容を次のとおりとします。（整備概要図参照）

方針1 歩行者通行量の増加や、歩行者動線と施設利用者の待ち行列の交錯による混雑を解消し、円滑な人の流れと見通しを確保する

- コンコース内に点在する行政サービス施設を、新規拡張部へ移転、集約
- 民間テナント施設を、通行に支障をきたさないコンコース中央部へ移転、集約

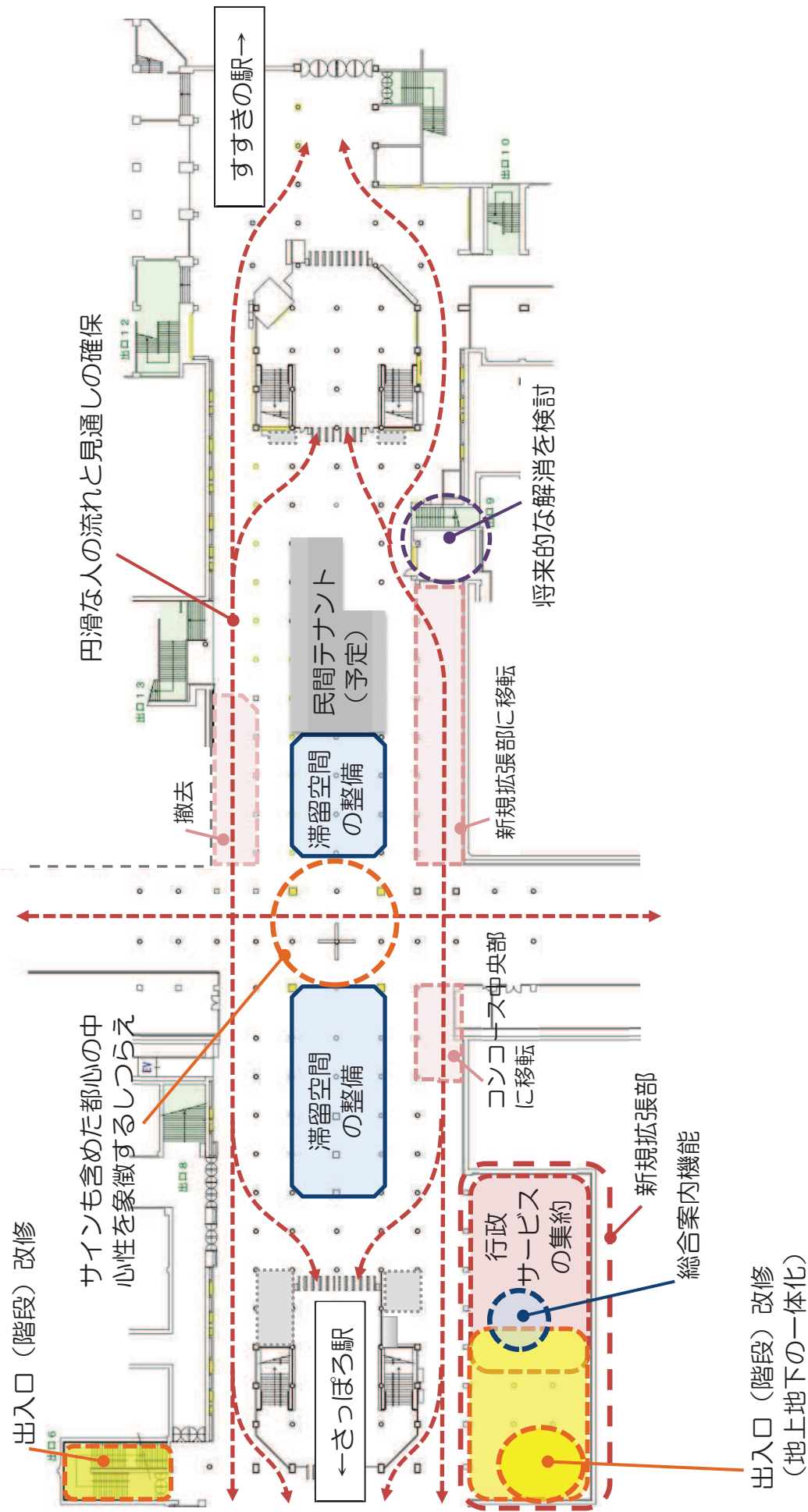
方針2 滞留機能、利便機能を備え、人々が豊かな時間を過ごすことができる広場を形成する

- 市民や札幌への来訪者が休憩、待ち合わせ、多様な情報の収集などを行うことのできる滞留空間を確保
- 観光文化情報ステーションを新規拡張部へ移転し、総合案内機能へ拡充

方針3 札幌都心の中心にふさわしい質の高い空間とする

- 新規拡張部の整備と併せて、出入口（階段）を改修。地上の自然光を取り込む吹抜けなど、地上と地下を結びつける空間を特徴的なデザインで整備
- 総合的に計画されたデザインに基づくコンコース全体の改修
- 中心性を象徴するしつらえとわかりやすいサインの設置

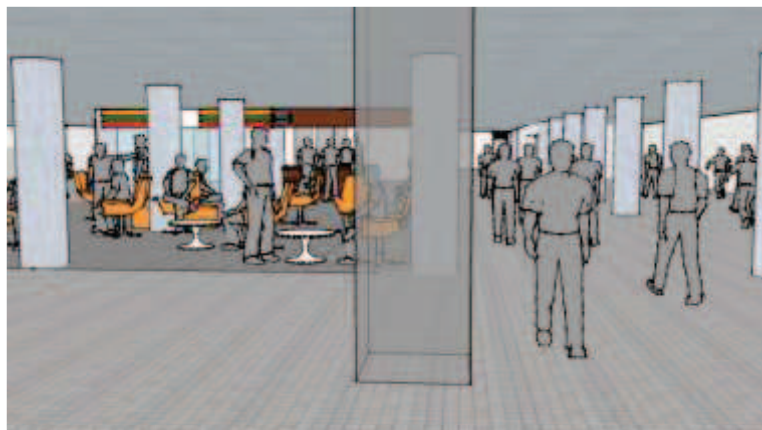
整備概要図



4 主な整備概要

(1) 滞留空間

大通交流拠点を訪れる人々が気軽に待ち合わせや休憩するなどの滞留や、交流を生み出すことが可能となる空間を、コンコース中央部の主要な歩行者動線の支障とならない位置に設ける。

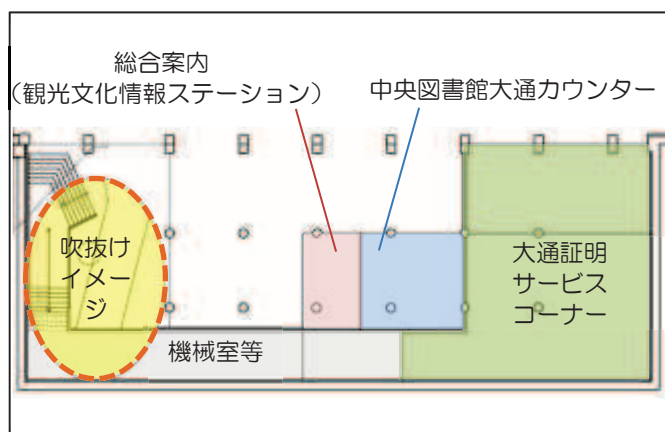


イメージ：滞留空間

(2) 新規拡張部

大通証明サービスコーナー、中央図書館大通カウンター及び観光文化情報ステーションを移転集約するとともに、観光文化情報ステーションの機能を拡充し、総合案内とする。

また、新規拡張部の整備と併せて出口5を改修し、地上の自然光を取り込み、地上と地下を結びつける吹抜けなど、ゆとりある空間を特徴的なデザインで整備する。



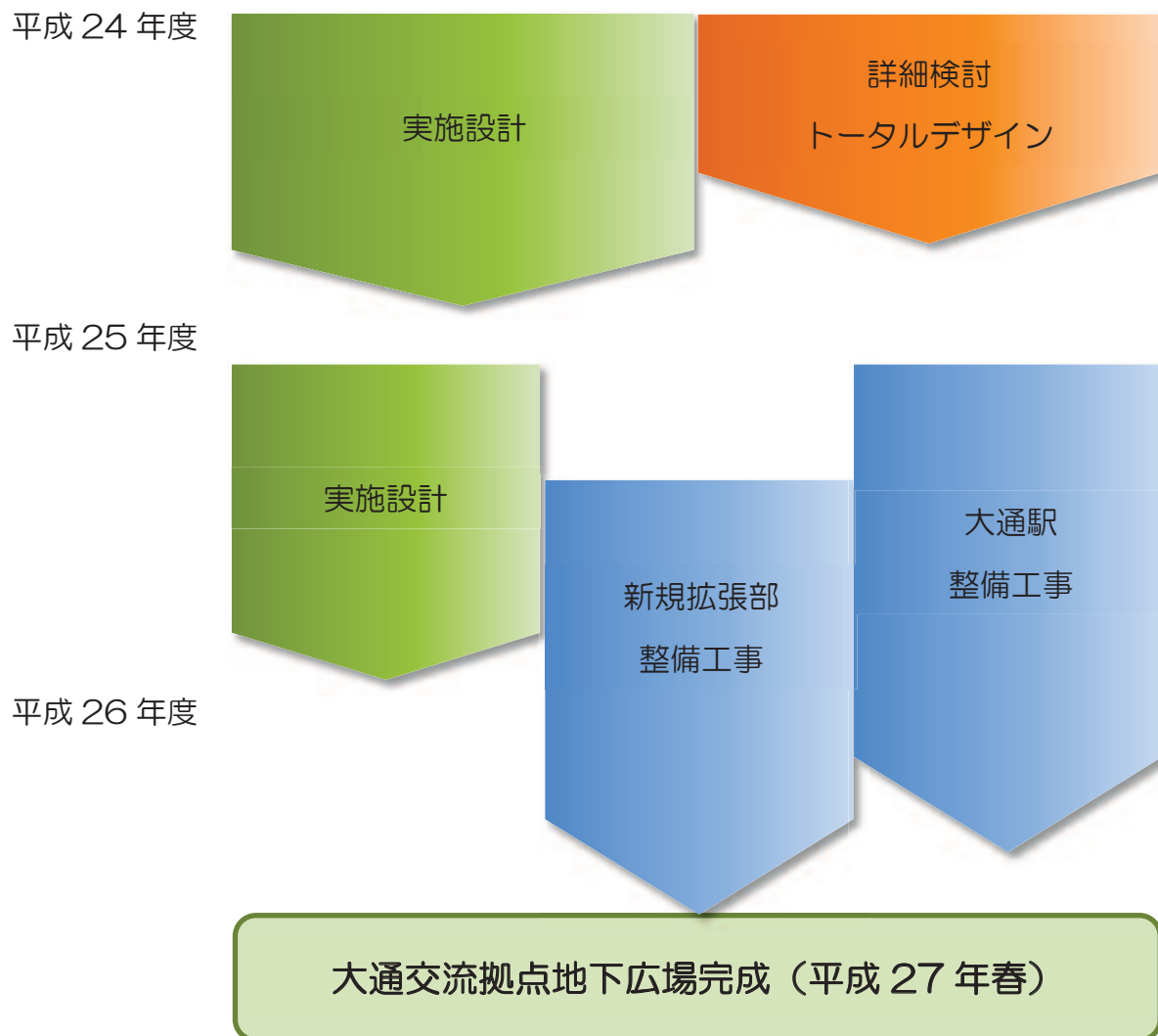
行政機能配置イメージ

5 概算事業費及び事業スケジュール

(1) 概算事業費 約22億円

※整備にあたっては国の補助制度（社会資本整備総合交付金）を活用します。

(2) 事業スケジュール



大通交流拠点地下広場整備基本計画（案）

平成 24 年（2012 年）7 月発行

編集・発行

札幌市市民まちづくり局都市計画部都心まちづくり推進室

〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

電話 011-211-2692 F A X 011-218-5112

Eメール ki.downtown@city.sapporo.jp

URL <http://www.city.sapporo.jp/kikaku/downtown/>

市政等資料番号	01-C06-12-874
---------	---------------
